

八木沼家と関所の由来

《小 中》

昔、八幡太郎義家が蝦夷征伐に来て、この地方を平定して関所を設けたといわれる。

旧小中街道で、白川方面からは上松本(天栄村)戸ノ内を経て平藤内、北ノ沢を出て、関所の所に来た。矢吹よりは矢田野、久保之内、志茂小中を経て関所を通り、長沼に出た。

この関所の最後の関守は、八木沼家の先祖嘉門という人だといわれている。姓は米沼ともいわれる。また百姓になったので、米は沼に作るので、米沼で、米という字をくづして八木沼になったともいわれる。麦久内の地に居を移して、一族六軒になった時があるという。

安政五年正月の火災で、旧記、家宝を多く失った。関所のあった所を今でも関畑と呼び、その地帯を関之人という字名で呼んでいる。

(話者 八木沼勝美)



小中 関畑